

2006年のJARPA レビュー・ワークショップ

IWC 科学委員会はJARPA から得られたデータや結果をレビューするワークショップを2006年12月に開催した。IWC 科学委員会の議長とIWCの科学部門の部長を含む14カ国から合計56人の科学者がワークショップに参加した。

ワークショップではとりわけ次のようなことに合意した：

「JARPA から得られたデータセットは海洋生態系における鯨類の役割のいくつかの面を研究するための貴重な試料を提供した。適切な解析を行えば、この試料はIWC 科学委員会およびCCAMLR（南極海洋生物資源保存条約）などのその他の機関においても重要な貢献をする可能性がある」

「JARPA の結果は、RMP に必要ではないが、下記の意味で潜在的にクロミンククジラの資源管理を改善しうるものがワークショップで同意された：

- (1) IST（シミュレーションによる適用試験）で検討されているもっともらしい仮説シナリオを絞り込む。
- (2) 将来のISTで検討すべき新しい仮説シナリオを特定する。

JARPA データの解析結果をこのように使うことにより、おそらく、絶滅のリスクを増大させることなしにクロミンククジラの捕獲枠を増やすことができる」

「JARPA プログラムはIWCの科学者にデータ共有の取り決めを通して利用可能な莫大なデータをもたらした。また、JARPA プログラムにより、IWCの科学雑誌やその他の国際的な論文審査のある学術雑誌に数多くの論文が発表された。航海報告や解説文を除き、*Rep. Int Whal Commn* と *J. Cetacean Res Manage* に22編の論文が発表され、その他の英文雑誌に58編の論文が発表された。後者の論文の主な学術分野は生理機能や繁殖、化学に関するものであり、6編は資源管理に関連したものである。さらに、JARPA から得られたデータに基づき、合計で182編の科学文章がIWC 科学委員会で発表された」